Vol.14
2026

Think of Next

CSR報告書



まちと未来をキレイにする仕事。
Chutoku Group

中特グループ
スローガン

まちと未来を
キレイにする仕事。

グループ各社
スローガン

〈中国特殊株式会社〉〈株式会社藤井興業〉水まわりで、地域まわり。
〈株式会社吉本興業〉スマイルアップ、クリーンアップ。
〈株式会社リライフ〉捨てられたモノに、いのちを。
〈株式会社ポータルハートサービス〉思い出も整理する。

■企業理念

使　命	「私たちは生活環境革命で人々を幸せにします」
基本姿勢	1. 私たちは、私たちを取り巻く全ての人々に誠実に接します 2. 私たちは、時代の風向きに敏感に反応し、いかなる時代が来ようとも存続します 3. 私たちは、共に地球に暮らす一員として、社会のために役立つ存在となります
行動指針	1. 明るく元気に 2. 迅速丁寧 3. 目配り気配り思いやり 4. ピンチはチャンスのプラス思考
目指すポジションNo.1	■社員の幸せNo.1　■お客様の満足No.1 ■社会に貢献No.1　■未来の創造No.1



ISO26000　7つの中核課題



Contents

『橋本さんと語る座談会』多様なキャリアから考える、私たちの成長 …… 3
TOPICS2026 …… 9
「現場アップデート」「太陽光パネルの地域循環を目指して」
「ACTA+ 全国各地の「本来なら捨てられてしまうもの」をアートに」「表彰・認定」
数字で見る中特グループ …… 11
環境のために［環境］ …… 15
地域社会とともに［コミュニティへの参画およびコミュニティの発展］ …… 17
お客様とともに［消費者課題・公正な事業慣行］ …… 19
社員とともに［労働慣行・人権］ …… 21
事故災害ゼロをめざして［労働慣行・人権］ …… 25
第三者意見 …… 29
公正な事業と組織運営のために［組織統治・公正な事業慣行］ …… 30

編集方針

中特グループのCSR／CSVの取り組み、事業、その他の活動をステークホルダーの皆様へご報告する様に編集しています。ホームページ等でも開示していますのであわせてご覧ください。作成にあたっては環境報告ガイドライン、ISO26000、及び国連持続可能な開発目標（SDGs）を参考にしました。
対象期間／2025年10月～2026年9月（一部対象期間外）

「橋本さんと語る座談会」

多様なキャリアから考える、私たちの成長



中特グループCEO
橋本ふくみ



(株)リライフ マネジメントグループ 課長
山本勉



(株)吉本興業
スマイルグループ 主任
諫早正行



中国特殊(株)
マネジメントグループ 主任
河田彩里

(株)リライフ
リサイクルグループ 主任
竹田鉄平





中国特殊(株)
eクリーングループ
田中俊行



(株)中特HD 総務管理部
金子ひかる



(株)中特HD 未来創造部
高尾璃七(司会)

(株)中特HD 総務管理部
松永綾佳

はじめに

橋本：今回は「成長」をテーマに、中特グループの皆さんにお集まりいただきました。入社してすぐの人から15年前後のベテランまで、高卒、大卒、新卒、中途と、キャリアも経験もさまざまなメンバーです。多様な人が集まっていることは、私たちの強みだと思っています。
今期は「出来る方法を徹底して考える」をスローガンに掲げました。一人ひとりの成長が、そのまま会社の成長につながるはずです。今日は正解を探すのではなく、皆さんがそれぞれ感じていることを、自由に聞かせてください。

高尾：本日の進行を務める高尾です。それぞれの立場から、皆さんの「成長」を語っていただきます。

01「仕事ができる人」とは？

高尾：最初のテーマは「仕事ができる人とはどんな人？」です。ぜひ皆さんのご意見を聞かせてください。

田中：僕は、仕事ができる人とは「かっこいい人」だと思います。仕事でもプライベートでも新しいことを取り入れて、学び続けている。自分から未知の世界に飛び込んでいく。そういう人は、自然とかっこよく見えます。今日ご一緒している竹田さんが、まさにそうです。中特グループの事業発展計画発表会で司会をされていましたが、初めての経験だったと聞いて驚きました。それでも堂々と役目を果たす姿は、本当にかっこよかったです。

竹田：ありがとうございます。でも、僕がうまくできたのは、プロデューサーの河田さんのおかげなんです。人知れず頭を抱えていたはずなのに、本番ではそんな姿を一切見せませんでした。僕は、やるべきことに集中して陰で支えられる人こそ、仕事ができる人だと思います。

松永：発表会といえば、私は入社1年目の発表会が印象に残っています。私たちが担当していた懇親会が押してしまったとき、プロデューサーだった先輩がうまく調整して、時間内に収めてくださったんです。急なトラブルにも



臨機応変に対応できる人が、仕事ができる人だと思います。

諫早：先ほどの「陰で支える人」に近いかもしれませんが、私は、人が嫌がることに率先して取り組む人が、仕事ができる人だと思います。私たちの仕事は、比較的楽なものから体力的にきついものまで多岐にわたります。その中で、自分から「やりましょう」と言ってくれる人を、心から尊敬します。

山本：私は、相手のことを理解しようとする人が、仕事ができる人だと思います。私の仕事は現場や営業を支える後方支援が中心です。前工程の営業担当には、どうすれば案件を引き渡しやすくなるか。後工程の経理担当には、どうすれば処理しやすい形で渡せるか。相手のことを想像しながらつなぐことが大切だと思います。

金子：皆さんのお話と重なりますが、私は、視野の広い人が仕事ができる人だと思います。社内外を問わず、どう伝えればこの先お互いに仕事がしやすくなるかを考えて動ける人です。それができるのは、経験を積み重ねてきたからこそなんでしょうね。

橋本：共通しているのは想像力ですね。目の前のことだけでなく、「この人はなぜこうしたんだろう」「陰でどれだけ努力しているんだろう」と周りまで想像できるかどうか。それが、仕事ができるかどうかの分かれ目なのかもしれません。

河田：私は、周りをどんどん巻き込んでいける人だと思います。いろいろなプロジェクトが動く中で、ほかの事業部の方とも「これをお願いしたい」「じゃあ私がやろうか」と声をかけ合って、



輪を広げていける人は本当にすごいです。抱え込みすぎず、困ったときに周りを頼れることも、仕事ができる人の特徴だと思います。

金子：人に頼れる人って、仕事ができると感じますよね。つい「自分でやったほうが早い」と思いがちなので、任せられるのは簡単ではないと思います。

橋本：河田さんの「周りを巻き込める人」を反対側から見ると、「この人のためなら一肌脱ごう」と、皆が自然と動きたくなる人なんだと思います。仕事ができる人の周りにはいつも人がいて、仕事が回っています。もちろん水面下では山ほど努力しているはずですが、それを見せないのも特徴ですね。

02「成長した」と感じた瞬間は？

高尾：次のテーマは「自分が成長したと感じた瞬間」です。できなかったことができるようになった出来事や、そのきっかけを聞かせてください。



河田：私は新卒で入社して、今は３つ目の部署にいます。仕事を覚えるのに精一杯なのは、入社したときと変わりません。ただ、自分の仕事の先にはお客様や社内の誰かがいることが、少しずつ見えるようになりました。そう気づけたこと自体が、成長なのかなと感じています。

山本：私は、新しい知識を得ることも成長の一つだと考えています。新卒１年目は技術開発を担う新設の部署に配属され、「困っていることはありませんか」と社内を回るところから始めました。他部署の仕事を知るほど、「自分にはこれができない」と分かります。できない自分を知るのが一つ目の成長、できるようになるのが二つ目の成長です。

高尾：「知らないことを知る」には、どうしたらいいんでしょうか。

山本：まさに今日のような場だと思います。日ごろ関わらない部署の人と話すと、ほかの人が何をしているのかが見えてきます。そこで初めて「自分はこれを知らなかった」と気づけるんです。



松永:山本さんの「できない自分を知る」というお話、すごく分かります。私は入社して３年ほど経理を担当し、日常業務がこなせるようになって、どこかで「もうまあまあできている」と思っていたんです。でも、現場に近い部署に異動すると、知らないことばかりでした。経理と現場の仕事がつながって見えてきて、自分はこんなに何も知らなかったんだと気づけたときが、私にとって成長を感じた瞬間です。

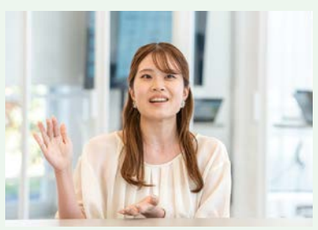


諫早：私が一番覚えているのは、初めて中型車で作業をやり終えたときです。中型免許は持っていたものの、大きな車での作業は経験がなかったので、駐車場で練習を重ねました。最後まで終えられたときは、ほっとすると同時に「なんとかやり遂げた」という気持ちでした。当時いろいろと教えてくださった方は、私にとって師匠のような存在で、今も少しでも近づきたいと思っています。

竹田：今、師匠の話が出ましたが、実は僕にとっては諫早さんが師匠なんです。中型車の運転も、諫早さんに教えてもらったからこそ今があります。あの頃できなかったことが、気づけばできるようになっている。そう感じたときが、僕にとっての成長の瞬間です。

金子：私も先輩方に助けていただいてばかりです。以前、「いつも頼ってばかりで、私は先輩の何の力にもなれていない」と悩んでいたことがありました。そのとき、ある先輩が「経験が違うんだから気にしなくていい。その分、後から入ってくる人を同じように助けてあげて。それが私への恩返しになるから」と言ってくれたんです。それからは、いつか自分が後輩を支えられるようになろうと、前向きに考えられるようになりました。





橋本：まずは足元のことから始める。それができるようになると余裕が生まれて、周りを俯瞰したり、ほかの人を思いやれたりするようになります。松永さんが「知らない自分」に気づけたのも、金子さんが後輩のことまで考えられるようになったのも、まさにそうして一歩ずつ進んできたからだと思います。いろいろなことを経験すると、それが身について、また違う場所で活かせます。気づいたら成長している、というのはそういうことなんですよね。



03 もう一度新入社員に戻れたら、同じ仕事？別の仕事？

高尾：次のテーマは「もう一度新入社員からやり直せるとしたら、今と同じキャリアか、別のキャリアか」です。中特グループにはさまざまな事業や職種がありますが、皆さんならどうしますか？

田中：僕は同じ仕事を選びます。中途採用で運転手として入社したのですが、実際には下水道の調査業務など、運転以外の仕事にもたくさん関わっています。昨年はマンホール 1,000 カ所を調査する大きな案件があり、多くの方の力を借りてやり遂げました。今はドローンにも取り組んでいます。新しいことに挑戦させてもらえる今の環境が、僕にはとても合っていると感じます。



橋本：高尾さんの意見も聞いてみたいですね。

高尾：人生は一度きりなので、私はいろいろなことに挑戦してみたいです。他部署の仕事にも、できるだけ多く携わってみたい。入社してまだ日が浅く、知識もスキルもこれからですが、今ここで学んでいることは、どの部署に行っても必ず役に立つと思っています。

金子：私もグループの中でいろいろな部署を経験してみたいです。同じ場所にとどまって、成長が止まっているように感じてしまうのが一番怖いんです。環境が変わると、それまで頑張ってきたことや、まだできていないこと、そして自分の成長に気づくきっかけになると思っています。

松永：私も別の仕事にチャレンジしてみたいです。経理の知識を持ったまま違う仕事を経験すれば、ほかの立場から見た経理の姿も分かるようになると思うんです。ただ、以前の私は新しいことに抵抗があって、「覚えるのが大変そう」と感じていました。

高尾：そこから考え方が変わったきっかけは何だったのでしょうか？

松永：高尾さんをはじめ、周りの人たちの影響が大きいです。グループ内のジョブローテーションで、まったく違う部署に移る人も少なくありません。その話を聞くうちに、新しいことに挑戦するのは怖いことではないと、だんだん分かってきました。

橋本：皆さんの話を聞いて、うれしく思いました。今と違う仕事に挑戦することに、あまり違和感を持っていませんよね。グループの中で会社や部署が交わるうちに、それが当たり前になっているのだとしたら、まさに私が目指してきた姿です。経験を積み重ねるほど、仕事も人生も面白くなっていきます。皆さんにも、そんなキャリアを歩んでほしいですね。

04 経験や学歴の違いを感じたことは？

高尾：次のテーマは「経験や学歴の違いを感じたことはあるか」です。違いを感じた場面や、それをどう乗り越えてきたかを聞かせてください。

諫早：同じ業界の経験者でも、入社してから学ぶことは多いので、スタート地点はみんな一緒だと思います。周りもそれを分かっていて丁寧に教えてくれるので、あまり違いを感じたことはありません。

田中：中特グループには高卒の人も大卒の人もいて、経歴もさまざまです。でも、その違いをほとんど感じません。その風土がすごくいいなと思っています。



河田：私は今まさに、経験の違いを感じています。入社２年目のころ、新しく立ち上がった未来創造部に異動しました。前例がなく、誰もが手探りのところからのスタートでした。でも、今いるマネジメントグループには、ベテランの方々がたくさんいます。そこへ、その業務に携わったことがないまま主任という肩書きで飛び込んだので、どう振る舞えばいいのか悩むこともあります。それでも、周りの方が温かく声をかけてくださるので、心強いです。これまでの異動も支えになっています。今はちょうど分岐点に立っていて、ここを乗り越えればまた一つ成長できると思っています。

竹田：僕は昨年度から、長く経験を積んできた先輩の業務を引き継いでいます。まだ先輩と同じようにすべてをこなせているわけではなく、そこに経験の差を感じることはあります。それでも、引き継いだ当時は全然知らなかったことが、今はできるようになっています。その差を少しずつ埋めていけたらと思っています。

田中：新しいことに挑戦するとき、僕は「失敗は怖くない！」と思うようにしています。

橋本：その気持ち、よく分かります。私は短大を卒業して社会に出てから、目の前のことを一つひとつ積み重ねてきました。悩んだときは、いろいろな方に「教えてください」と駆け込んできました。そんな私が最近、ありがたいことに、県内の高校の校長先生方の前で講演する機会をいただきました。自分でも驚くほど、堂々と臨むことができました。学歴や肩書きの差は、自分がやってきたことに責任を持って語れるようになれば、気にならなくなるのだと実感しています。大切なのは、自分の足で歩いてきた道のりです。
ですから皆さん、失敗を恐れないでください。私の将来の目標は、老人ホームで「話のネタが尽きないおばあちゃん」になることです。自慢話より失敗談のほうが、ずっと人の心を引きつけます。芸人さんがネタ帳をつけるように、うまくいかなかったことも書き留めておけば、いつかきっと自分の財産になります。
経験を重ねると、つまずくことはだん





だん減っていきます。そのときこそ新しいことに挑んで、また引き出しを増やしていけばいいのです。そう考えれば、新しい一歩を踏み出すことが、きっと楽しくなりますよ。

05 あなたにとって「成長」とは？

高尾：最後のテーマです。あなたにとって「成長」とは何ですか？　一人ずつ聞かせてください。

河田：私にとっての成長は、目の前の仕事の、その先にある目的や周りのことまで考えられるようになることです。言われたことをこなすだけでなく、意図を考えながら行動したり、自分で課題を見つけて改善を提案したり。より良くするために動く意識に変わることが、成長の一つだと思います。自分だけでなく、チーム全体の成果につながる視点を持ちたいです。



竹田：これまで、成長とは、できなかったことができるようになって心が動いたときだと考えていました。でも今回の座談会で、河田さんの「その先にある目的や周りのことまで考えられるようになる」というお話に、僕も共感しました。その考え方を大事にしていきたいです。





田中：僕は、最初にお話しした「かっこいい人」を目指すことが、成長につながると思っています。それから、自分の成長って分かりにくいですよね。誰かに言われて初めて気づくこともあります。だから、仲間の小さな成長にも「成長したね」「すごいね」と言い合える関係をつくりたいです。

橋本：それこそポータルハートカードの出番ですね。言いたくても口には出しにくい人は、カードに書いて渡せばいい。㈱吉本興業でもやっていますよね。

山本：私にとっての成長は、仕事の本質や急所が分かるようになることです。会社全体で見ると、売上につながる活動なのか、コストを下げる活動なのかという視点を持って進めることが、自分自身や組織の成長になると思います。

金子：私にとっての成長は、自分のスキルアップにとどまらず、さまざまな人の視点で物事を考えられるようになることです。視野を広げて、お互いを高め合っていきたい。周りの人に良い影響を与えられるようになったら、それは成長できている証なのかなと思います。そうなれるように頑張ります。

松永：先ほど山本さんのお話にあったように、知らない自分に気づくことも成長だと思っています。㈱中特ホールディングスの経理から始まり、㈱リライフを経て、今は中国特殊㈱に関わっています。ここでも知らないことをどんどん吸収して、成長していきたいです。

諫早：普段は同じような業務の繰り返しになりがちなので、やったことのない仕事や、知っていても詳しくは分からない業務に、自分から挑戦していきたいです。週に１つでも月に１つでも分からないことを減らして、１年後に今より成長していられたらと思います。



橋本：私もまだまだ成長しますよ。皆さんからいろいろな意見が出ましたが、それこそが会社の成長だと思います。「会社が決めた」と、まるで会社という人がいるかのような話を時々聞きます。でも、その会社とは誰のことでしょう。私たちの集合体ですよね。自分自身が成長しなければ、会社も成長しません。私も皆さんも会社の一員です。共に成長していくことが、会社の未来につながります。私にとっての成長とは、中特グループの成長です。

高尾：今期のスローガンは「出来る方法を徹底して考える」です。できない理由より、できる方法を。この１年、一緒に考え抜きましょう。本日はありがとうございました。



ChutokuNEWS TOPICS 2026

現場アップデート





中国特殊㈱・㈱藤井興業

現場の安全性や業務品質をさらに高めるため、中国特殊㈱と㈱藤井興業では新しい技術の導入と社員のスキルアップを進めています。
HOSグループでは資格取得支援制度により電気工事士の有資格者が増加し、浄化槽の電気設備に関する点検や緊急時の対応力が強化されました。㈱藤井興業でも社員2名が貯水槽管理に関する技術講習に参加するなど、専門性の向上を進めています。
eクリーングループでは、社員2名が国家資格「無人航空機(ドローン)操縦者技能証明」を取得しました。今後はドローンを活用し、工事の進捗記録や出来形確認、管路・構造物の点検、災害時の状況把握などに役立てていきます。

SBグループでは、解体工事の現場に施工管理アプリ「eYACHO」を導入しました。これまで個別に管理していた図面や工事写真、記録をタブレット1台に集約し、現場で記録まで完結できる環境を整えました。これらの活用により、ペーパーレス化と業務精度の向上を図り、環境負荷の低減に繋げています。業務の効率化によって生まれた時間を、安全確認や近隣の方への対応など、より丁寧な現場づくりに充てています。
技術が変われば、現場も変わる。これからも新しい技術と確かな技能の両面から、一つひとつの現場をアップデートしてまいります。

㈱吉本興業



スキルアップ体制の刷新について

安定したサービス提供の基盤となる人材の育成を図るため、㈱吉本興業では、回収コースの習熟度向上に向けた仕組み作りを進めています。コースの習得に時間がかかることが課題でしたが、OJT体制を刷新し、役職者と指導運転手がスキルマップの活用を通して教育内容を適宜検証するフローを組み込みました。さらに、定期的な業務ローテーションを体系化することで、対象者がスキルの向上後すぐに単独で現場実践できる体制を整えました。指導と実践の好循環を生み出しています。

㈱ポータルハートサービス

高レベルのサービス提供への取り組み

㈱ポータルハートサービスでは、資格保有者や異業種経験者の採用、社員同士の相互指導によるスキルUPに取り組んでいます。最近では、長年ハウスクリーニング業界で活躍されていた方が新たに加わりました。今後は清掃技術向上の勉強会なども実施し、遺品整理や片付け後の現場でより質の高いサービスを目指してまいります。



㈱リライフ

四軸破砕機導入と作業環境の改善

㈱リライフでは、処理能力の向上と業務の効率化に向け、設備や作業環境の改善を進めています。
「ものづくり・商業・サービス生産性向上促進補助金」を活用し、従来の二軸破砕機を四軸破砕機へ更新します。四軸化により破砕性能が向上し、これまで処理が難しかった廃棄物にも対応できる見込みです。受入可能な廃棄物の幅が広がることで、より多様な処理ニーズに応えてまいります。新設備による、お客様からの廃棄物の受入開始は、2027年3月を予定しています。
また、工場内に新たに安全通路を整備しました。舗装により歩行スペースを明確にすることで、従業員や来場者が安心して通行できる環境を整えました。
今後も安全性・効率性の向上に努めるとともに、廃棄物処理・リサイクル事業を通じて持続可能な社会の実現に貢献してまいります。



太陽光パネルの地域循環を目指して

太陽光発電の普及が進む一方、今後は使用済み太陽光パネルの増加が見込まれています。山口県内には現在、太陽光パネルを専門的に再資源化する施設が少なく、県外での処理に頼っている状況です。地域で発生したものを、できるだけ地域に近い場所で適正に処理し、次の資源につなげることは、地域の環境を支える私たちが取り組むべき課題だと考えています。
まずは使用済み太陽光パネルの積替え保管から取り扱いを開始し、適正な再資源化施設へつなぐことで、排出状況や物流、処理後の資源の行き先など、実際の取り扱いを通じた知見を蓄積していきます。同時に、これまでの調査や先進施設の視察で得た知見を活かし、将来的な自社処理設備の導入に向けた準備も進めています。
目指すのは、県内で発生した太陽光パネルを地域で受け入れ、自社設備による再資源化と、これまで培ってきた廃棄物処理の技術や既存の処理ルートを組み合わせた、持続可能な処理体制です。設備を導入すること自体をゴールとするのではなく、地域に必要とされ、将来にわたって機能する循環の仕組みをつくることを大切にしていきます。「まちと未来をキレイにする仕事。」をこれからも形にし、地域の資源循環を支える新たな役割に挑戦していきます。

ACTA+　全国各地の「本来なら捨てられてしまうもの」をアートに





11月1日(土)～30日(日)、㈱ACTAPLUSはオリックス・ホテルマネジメント株式会社直営の全国20ヶ所の宿泊施設等にて、地域の産業等から生じる、本来は捨てられてしまう素材を使用したアートの納品、展示を行いました。
2月21日(土)～3月5日(木)には三井不動産株式会社、株式会社イトーキ、株式会社イチマス田源の協賛のもと、東京ミッドタウン八重洲にて、パブリック・アート展「神秘の森」を開催しました。クラウドファンディングでは目標金額の310%、約200名の支援を頂きました。





タイでの取り組みも進み、サイアム髙島屋のサステナブルライフカタログ「HAMPERS&GIFTS 2026」の品物・表紙に作品を採用いただきました。
また、8月21日～23日に開催された西日本最大級の音楽フェスティバル「WILD BUNCH FEST. 2026」にて、ごみを捨てるためのエコステーションを廃棄物アートで変身させる「Calm Echo Station　—Regenerative Garden つなぐ庭—」の取り組みを行いました。廃棄されたペットボトルから花を作るワークショップでは、多くの子どもたちが夢中になって取り組んでいました。

表彰・認定

11月20日(木)、光市民ホールにて第67回快適な環境づくり山口県大会が開催され、中特グループCEOの橋本ふくみが生活環境改善事業の功労者として、団体推薦により山口県知事表彰をいただきました。産業廃棄物業務の新制度への先駆的な取り組みなどが評価されました。
また、㈱中特ホールディングスと㈱リライフは、太陽光や風力などの再生可能エネルギーによって発電された電力(再エネ電力)の利用に積極的に取り組む県内事業所を対象とした「やまぐち再エネ電力利用事務所」の認定を受けました。1月14日(水)、本社COILにて認定証交付式を行い、山口県環境生活部長より認定証をいただきました。





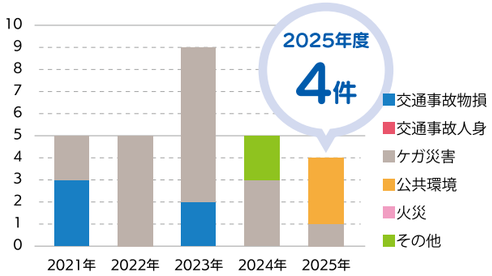
数字で見る中特グループ

2025 中特グループの10の取組み【経営&ISO統合目標】

中特グループが地域社会に強く必要とされるために、次世代のために、環境のこと、社会のこと、子どもたちのことを考えて何をすべきか、あるべき姿に向かって取り組んでいます。2025年度は10の課題を掲げて活動を行いました。

01 事故・災害の撲滅

事故・災害については、「安全はすべてに優先する」という基本理念のもと、常に「ゼロ」を目指して取り組んでいます。
2025年度も幸いにして大きな事故・災害は発生しておりませんが、4件の軽微な事故・災害が発生しました。発生の特徴として、昨今もっとも警戒すべき「熱中症の疑い」や「環境に影響を与えかねない事故」といった、これまでとは異なる種類の事例が発生しています。
これらを踏まえ、作業前に「危険源」を極力排除するため



に、リスクアセスメントやＫＹ活動を確実に実施すること、「ヒヤリハットのうちに芽を摘む」ことの重要性を皆で再認識し、事故・災害「ゼロ」の実現を目指してまいります。

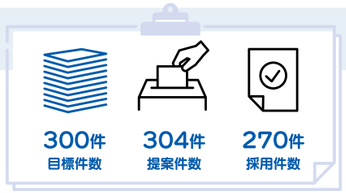
02 環境への貢献

地球環境の維持・改善にわずかでも貢献するため、産業廃棄物の再資源化率向上、CO_2排出量削減に向けて取り組んでいます。
再資源化率向上については、2025年度は84.1%となり、前年比で10%以上低下しました。これは、セメント原料としてのリサイクル量が減少したことによるものです。



背景には、セメントメーカー側での受入れ量の減少という業界動向があります。新たな再資源化先の確保にも取り組んでいます。
CO_2排出量削減については、813t-CO_2となり、前年比2.5%増となりました。これは、売上増に伴う収集運搬車両の軽油燃料の増加が大きく影響しています。
今後、更なる向上を目指してまいります。

03 中特チームカイゼン活動



安全衛生の向上、業務の効率化、コスト削減、省資源・省エネ、環境美化、社員の改善意識向上を図るため、改善提案制度を導入し、活動を行っています。
2025年度の提案件数は304件で、目標である300件を達成し、前年比6%の増加となりました。このうち実施採用件数は270件です。
内容面では、ヒヤリハットや品質トラブル解決に関する提案も徐々に増えており、効率化にとどまらずコンプライアンス遵守に向けた質の向上も見られるようになりました。
2026年度の会社スローガン「出来る方法を徹底して考える」のもと、現状の問題点を放置することなく、グループの品質レベルを高めるため、質・量ともに充実した改善活動を実施してまいります。

04 従業員の状況（従業員数、男女比、平均年齢）

「自分らしい働き方」を後押しする短時間正社員制度や、希望時間帯で働けるパートタイム制を導入し、育児世代の女性が数多く活躍しています。新卒採用や若手の中途採用にも積極的に取り組んだ結果、平均年齢は45.1歳。若手からベテランまで幅広い世代が共に働く、バランスの取れた組織です。

※2026年8月1日現在、役員・正社員・準社員（派遣社員除く）



平均年齢男女別

全体45.1歳　男性／45.5歳　女性／44.3歳

男女比

全体134名　男性／90名（67.2%）　女性／44名（32.8%）

05 働き方（有休・残業）

「働き方改革推進に関する方針」を掲げ、ワークライフバランスの推進、社員の健康で充実した生活を後押し、長時間労働を美徳としない風土づくりに努めています。
勤怠管理システムの導入により実労働時間の把握・管理を実施。また、単なる労働時間削減ではなく、DX推進や業務標準化により、業務の効率化や労働生産性の向上に向けた取り組みを進めています。昨年度は総務管理部が旗振り役となり「有給休暇の計画的取得キャンペーン」をグループ全社にて実施。家族の時間やプライベートの充実などを目指して、有給休暇の取得推進をおこないました。

※対象期間：2025年8月～2026年7月

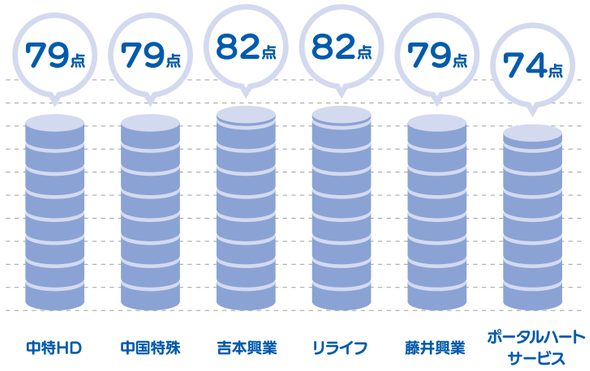
有給休暇取得率 86.7%
月平均残業時間 2.0時間
育児休暇取得率 100%
平均有休取得日数 11.7日



06 健康増進活動推進

年1回の健康診断及び要検査対象者全員への受診勧奨をおこなうとともに、ストレスチェックも年1回実施しています。月1回は産業医による職場巡視を実施し、安全衛生委員会では健康面での啓発やアドバイスをいただいています。
禁煙達成費用補助制度を継続するほか、総務管理部より月1回、健康情報をLINE WORKS掲示板にて全社員へ発信し、社員の健康意識の向上に努めています。

健康経営評価シート（2025年度）



07

社員幸福度

近年、企業経営においては「社員の心身の健康」や「生活の幸福度」といった観点から、ウェルビーイングの概念がますます重要視されています。
ウェルビーイングの視点から会社の現状や課題を把握し、働きがいのある職場づくりや福利厚生・制度設計に活かすことを目的に、毎年グループ全社員を対象としたウェルビーイングアンケートを実施しています。
主観的健康観については「良い・まあ良い」と回答した社員の割合が前年から回復しました。一方で、仕事満足度に関しては「満足・まあ満足」と回答した社員の割合が減少する結果となり、改善の余地があることが明らかになりました。
今後も心地よい会社を目指して、社員の働きやすさや働きがいの向上、職場環境の整備、福利厚生の改善、健康経営の取り組みを積極的に実施します。

ウェルビーイング

ワークエンゲージメントスコア

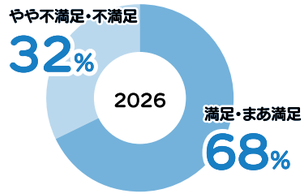
3.0点／6点

（ 昨年は3.1点 ）

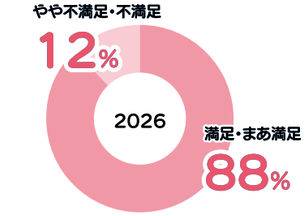
※ワークエンゲージメントとは、仕事に関連するポジティブで充実した心理状態のことを指し、ワークエンゲージメントが高い人は、一般的に仕事に誇りややりがいを感じ、熱心に取り組み、仕事から活力を得て、いきいきと働いているとされています。

ウェルビーイングアンケート

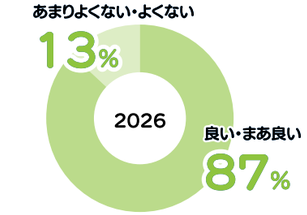
仕事満足度



家庭満足度



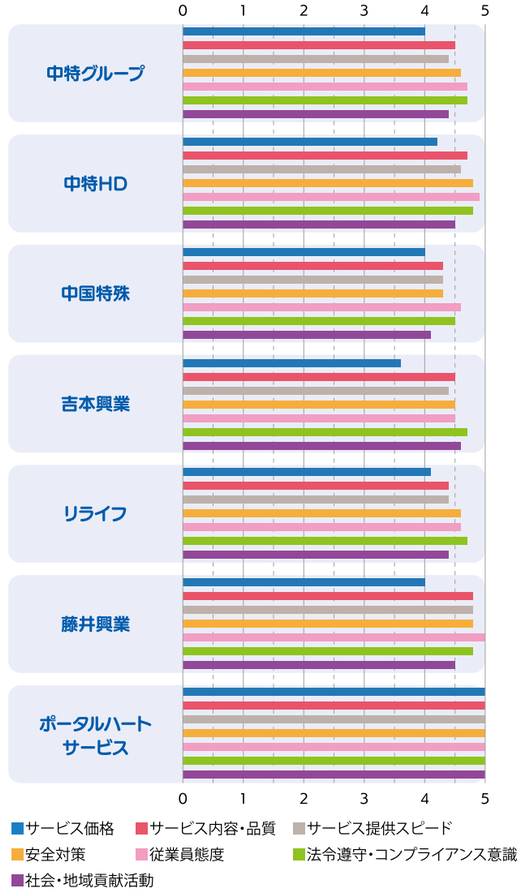
主観的健康観（現在の健康状態）



08

顧客満足度アンケート結果

今年度も顧客満足度アンケートを実施し、「サービス内容・品質」「サービス提供スピード」「サービス価格」「従業員態度」「安全対策」「法令遵守・コンプライアンス意識」「社会・地域貢献活動」の7項目について、5段階評価でご意見を伺いました。
アンケートの結果、「従業員態度」が4.67、「法令遵守・コンプライアンス意識」が4.66と高い評価をいただきました。また、前回課題として挙げていた「サービス提供スピード」は4.34から4.45へ向上しており、業務フローや対応方法の改善に取り組んできた成果が表れたものと受け止めています。一方、「サービス価格」は4.04と、前回の4.03からほぼ横ばいとなっており、引き続き課題として認識しています。価格そのものだけではなく、提供する商品・サービスの品質や付加価値をさらに高め、その価値をお客様に実感していただけるよう努めてまいります。
自由記述では、「クリーン」「誠実」「明るい」「地域に根差している」といったイメージに加え、社員の対応や教育、女性・若手の活躍についても多くの評価をいただきました。また、地域貢献活動や次世代教育、リサイクル・再資源化など、これまで中特グループが継続してきた取り組みに対する声も多く寄せられています。
今後への期待としては、地域貢献活動の継続・発展に加え、循環型社会の実現に向けた取り組み、対応可能な廃棄物やサービスの拡充、環境に関する情報発信、次世代を担う若者の育成など、幅広いご意見をいただきました。また、「業界を牽引してほしい」「山口県になくてはならない企業であり続けてほしい」といった期待の声もあり、私たちが地域や社会の中で果たす役割の大きさを改めて感じています。
中特グループは、こうしたお客様の声を今後の事業活動やサービス改善につなげ、より安心してお任せいただける企業を目指してまいります。これからも既存サービスの品質向上はもちろん、地域や社会の課題解決につながる新たな価値の創出に挑戦し、皆さまから選ばれ続ける企業であるよう努めてまいります。



09

地域とのかかわり

地域とのつながりを大切にし、地域清掃や教育機関などとの連携を通じて、環境保全や地域貢献に継続的に取り組んでいます。特に教育機関（小学校・中学校・高等学校・大学）との連携では、環境学習やキャリア教育など、多岐にわたるサポートを行いました。
また、2013年から続けている「いきいきサロン」への訪問は、今年で13年目を迎え、地域の皆さまとの交流を深めています。今後も地域社会の一員として、多様な取り組みを通じて、地域に根差した活動を続けてまいります。

21回 地域清掃ボランティア

20回 教育機関連携（小・中・高・大）

15回 いきいきサロン・セミナー

2回 環境出前授業

10

年間売上

2025年度の売上高は18.01億円となりました。特に廃棄物処理・リサイクル部門は近年の資源循環や環境負荷低減に対する社会的な関心の高まりに伴い拡大しました。
2026年度は「出来る方法を徹底して考える」をスローガンに掲げ、お客様や地域のニーズを捉えながら、循環型社会の実現に向けてさらなる成長を目指してまいります。



生活環境を、もっと豊かに。

「中特グループは、地球上の全人類及び地域社会とともに持続可能な発展をするために、環境保全に努め、環境に優しい企業活動を行う。」という考えのもと、地域環境活動を推進しています。

01 CO_2削減の取組み

日本の掲げる2050年カーボンニュートラル宣言、2030年までの削減目標に沿って、中特グループもCO_2削減を推進しています。2025年度のCO_2発生量は813t-CO_2／年と、前年度比2．5％の増加となりました。これは売上高の増加に伴い、特に収集運搬用車両にて使用する軽油の燃料使用量が増加したことが影響しています。今後も具体的な削減に取り組んでまいります。
なお、算出はScope1・2の集計となります。
種別排出量並びに各社別排出量は次の通りです。

二酸化炭素排出量（2025年度）

■排出量換算係数

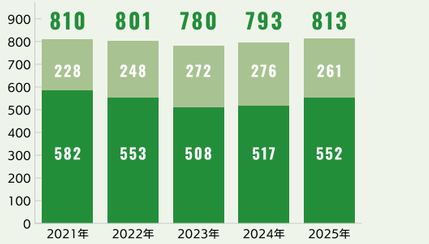
種類	単位	係数	換算単位
電気	kWh	0.636	
LPG	㎥	2.990	
水道	㎥	0.580	
一般廃棄物	kg	0.840	
灯油	L	2.500	Kg-CO_2
A重油	L	2.750	
原油	L	2.670	
ガソリン	L	2.290	
軽油	L	2.620	

■会社別・項目別排出量

	電気		LPG		水道		一般廃棄物		灯油		ガソリン		軽油		換算排出量計
	使用量	換算排出量	使用量	換算排出量	使用量	換算排出量	使用量	換算排出量	使用量	換算排出量	使用量	換算排出量	使用量	換算排出量	
中特HD	47,189.00	30,012.20	0.00	0.00	191.00	110.78	384.45	322.94	0.00	0.00	2,417.17	5,535.32	0.00	0.00	35,981.24
中国特殊	53,357.00	33,935.05	15.70	46.94	415.00	240.70	369.55	310.42	332.00	830.00	10,769.58	24,662.34	44,683.48	117,070.72	177,096.17
藤井興業	5,436.00	3,457.30	2.00	5.98	63.00	36.54	0.00	0.00	52.00	130.00	1,496.22	3,426.34	3,837.16	10,053.36	17,109.52
吉本興業	24,533.00	15,602.99	11.60	34.68	582.00	337.56	0.00	0.00	0.00	0.00	1,512.46	3,463.53	63,601.49	166,635.90	186,074.67
PHS	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	2,592.47	5,936.76	0.00	0.00	5,936.76
リライフ	276,516.00	175,864.18	2.70	8.07	1,440.00	835.20	529.10	444.44	0.00	0.00	2,730.62	6,253.12	79,248.40	207,630.81	391,035.82
計	407,031.00	258,871.72	32.00	95.68	2,691.00	1,560.78	1,283.10	1,077.80	384.00	960.00	21,518.52	49,277.41	191,370.53	501,390.79	813,234.18

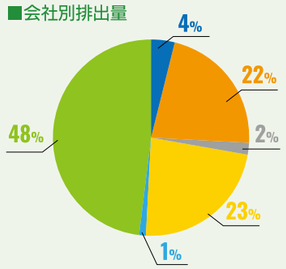
出典：環境省温室効果ガス排出係数について

■CO_2排出量推移（単位：t-CO_2/年）



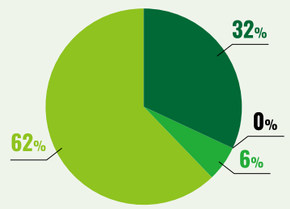
Scope2　他社から供給された電気・熱・蒸気などの使用による間接排出
Scope1　燃料燃焼・工業プロセスによる直接排出

■会社別排出量



中特HD　中国特殊　藤井興業
吉本興業　PHS　リライフ

■項目別排出量



電気　ガソリン　軽油
LPG・水道・一般廃棄物・灯油

02 ISO統合サーベイランス審査

中特グループでは「品質」「環境」「安全」の3規格について、ISOの認証を取得・継続しています。従来は3規格を個別に審査していましたが、昨年からこれを統合し、今年度は6月9日から12日の4日間、統合後初のサーベイランス審査を受審しました。
審査の結果、特に是正処置を必要とする不適合の指摘はなく、マネジメントシステムは十分に有効との判定を受け、認証を継続することとなりました。審査員からの「改善の機会」を参考にして、マネジメントシステムを更に改善できるよう全社で共有していきます。



03 マテリアルバランス

事業活動に伴う資源・エネルギーなどの投入量と、その結果生じる地球環境への排出量を表しています。
限りある資源を大切に、環境負荷を最小限にすべく取り組んでいます。

INPUT 事業に伴う資源・エネルギー等

汚泥	21,165t
がれき類	308t
ガラスコンクリ陶磁器	210t
廃プラスチック類	1,313t
金属くず類	223t
繊維くず	3t
紙くず類	35t
ダンボール紙類	400t
木くず	426t
廃酸廃アルカリ	312t
廃油	111t
鉱さい	29t
もえがら	1,939t
ばいじん	2,411t
動植物性残渣	18t
処理水	34,193㎥
水道水	2,691㎥
地下水	2,000㎥
電力	407,031kWh
ガソリン	21,519L
軽油	191,371L
灯油	384L
LPG	32㎥
コピー用紙	314,343枚

▶ 中特グループ ▶

OUTPUT 再資源化、地球環境への排出等

リサイクル対象のもの	
セメント原料	17,067t
がれき類	151t
ガラスコンクリ陶磁器	91t
廃プラ	718t
ペットボトル	66t
金属くず	222t
缶	22t
紙・繊維くず	8t
ダンボール紙類	380t
木くず	372t
肥料原料	0t
石膏ボード	11t
リサイクル対象としないもの	
汚泥焼却	222t
汚泥埋立	3,389t
処理排水	33,306㎥
下水排水	3,110㎥
地下水排水	1,950㎥
CO_2排出量（換算）（エネルギー及び水道使用量から算出）	813t
一般廃棄物	1,283kg

リサイクル率 84.1％

リサイクル率

リサイクル率は下記の式で算出しております。

$$リサイクル率(\%) = \frac{直接資源化量 + 処理後再生利用量}{廃棄物排出量} \times 100$$

リサイクルするもの	金属、木材、紙、プラスチック、セメント原料、肥料原料等
リサイクルしないもの	埋立処分、燃料（サーマルリサイクル）等

一丸となり 地域を支える。

中特グループは、地域社会の一員として、地域社会とのかかわりを大切にし、グループ全社をあげて様々な企業活動を行っています。

01 地域イベントで環境啓発

10月25日（土）、中特グループはエコライフチームとして、山口きらら博記念公園にて開催された「やまぐちJOBフェスタ」に参加しました。
当日は、出展ブースを1つ担当し、廃棄物を用いたアート作品作りと、中特グループで飼育しているダチョウをテーマにした環境クイズを実施しました。クラフトアート体験では初の試みとなる写真立てへの飾り付けを行い、事前に準備していた写真立て20個が全てなくなるほどの好評をいただきました。あいにくの雨となりましたが、118名の方にご参加いただきました。
また、11月16日（日）には、晴海親水公園で開催された「ミナトのミーツ」と、周南市地方卸売市場「魚市場」で開催された「周南　海の市2025」にも参加しました。ミナトのミーツでは海岸漂着物を使ったクラフトアート体験を行い、また、「周南海の市2025」ではイベント運営に協力し、クラフトアート体験や砂場での宝探しのお手伝いを行いました。天候にも恵まれ、どちらも子どもたちを中心に大盛況となりました。
エコライフチームは、地域の皆さまと共に環境問題について楽しく考える場をつくることを目的に、今後も地域活動に積極的に参加してまいります。



ミナトのミーツ





ゆめ花マルシェ





周南 海の市2025

02 いきいきサロンでの交流活動

㈱ポータルハートサービスでは、いきいきサロンでの「ごみ分別ゲーム」や「終活セミナー」を通じて、地域の皆さまとのつながりを大切にした活動を行っています。
（2026年7月現在：累計開催数164回、参加者数4076名）
ごみ分別ゲームでは、楽しみながら正しい分別方法を学んでいただくとともに、「今困っていること」や「捨て方がわからないもの」など、日頃のお悩みやご相談にもお応えしています。
また、「なぜこのように分別するのか」という理由もあわせてお伝えすることで、分別の仕組みを理解し、自信を持って分別できるようになったというお声もいただいています。
終活セミナーでは、これからもより安心して暮らせるよう、片付けのポイントや事例等を交えわかりやすくお伝えしています。
これからも地域の皆さまと直接ふれ合いながら、安心して暮らせる地域づくりに貢献できるよう活動を続けてまいります。



03 環境出前授業に伺いました

9月30日（火）と10月9日（木）、㈱吉本興業は湯野小学校（児童9名）と戸田小学校（児童24名）で、小学4年生を対象とした「環境出前授業」を行い、社員2名が講師を務めました。
授業では、ごみの分別方法や3R、食品ロスについて分かりやすく伝え、ごみを正しく分別することの大切さを学んでいただきました。
その後、日用品や雑貨などがごみになった際の分別品目を考える「分別ゲーム」を行いました。児童の皆さんは実物を手に取り、分別方法を考えながら楽しそうに取り組んでいました。
最後に、社員が見守るもと、児童の皆さんには、持参したペットボトルをごみ収集車へ投げ込み、操作ボタンを押す体験もしていただきました。児童の皆さんは、操作に合わせて動く車両内部の様子を興味津々で見つめていました。









04 学びの機会を地域へ

8月19日（水）、㈱中特ホールディングスは地域の企業を巡る産業観光ツアーの参加者22名を受け入れました。当日は、ダチョウを活用した食品リサイクルループの仕組みや食品ロスについて紹介し、実際にダチョウへの給餌体験を行っていただきました。参加者には、資源循環の仕組みを楽しく学んでいただくとともに、地域の産業に触れることで環境について考えるきっかけを提供しました。
また、10月14日（火）には周防大島町の小学校3校合同の社会見学を受け入れ、15名にクラフトアートとダチョウ給餌を体験していただきました。





05 体験の機会の場

㈱中特ホールディングスは、環境教育等促進法第20条に基づき山口県から「体験の機会の場」に認定されており、地域の子どもたちが環境問題を実際に体験しながら学べるプログラムを提供しています。
11月14日（金）には、豊井小学校の3・4年生を対象に環境学習イベントを実施しました。当日は、食品ロス問題について説明した後、当社が取り組む食品リサイクルの一環として、ダチョウへの給餌体験を行いました。
また、4月25日（土）には、小学校低学年の児童を対象に、海洋ごみについて楽しく学ぶクイズ形式のスタンプラリーや海岸清掃を実施しました。さらに、海岸清掃で拾ったごみの一部を活用し、アート作品の制作にも取り組みました。
これらの活動を通じて、子どもたちが食品ロスや海洋ごみなどの環境問題を身近な問題として捉え、楽しみながら学ぶ機会を提供しました。









06 地域清掃ボランティア活動

中特グループは、「まちと未来をキレイにする仕事」を体現すべく、会社周辺の清掃活動をはじめとする地域清掃ボランティアに20年以上にわたり取り組んでいます。
自社企画として、「徳山夏祭り」「冬のツリー祭り」の翌朝の清掃活動と「はなぐり海岸一斉清掃」を実施したほか、「大津島海岸クリーンアップ」など他団体が主催するボランティア活動にも多くの社員が参加しました。
今後も地域の一員として、地域の皆さまや関係団体と連携しながら環境保全活動を継続し、安心して暮らせるまちづくりに努めてまいります。







07 教育機関と地域をつなぐ

次世代とのつながりを大切にするため、中特グループでは山口県内の小学校から大学までの教育機関との協働を積極的に行っています。各教育機関において合計20プログラムのサポートを1年間に実施しました。
一例として、周南公立大学の学生が取り組む地域課題解決に伴走しました。テーマを「徳山駅周辺をウォーカブルな街にするためには」と定め、ファシリテーターとして学生と駅周辺を歩き、不動産事業者や商店街で活動する方々へのインタビューを実施しました。
また、6月3日（水）、山口県庁職員ホールにて開催された令和8年度第90回山口県産業教育振興会定時総会・研究大会において、中特グループCEOの橋本ふくみが「地域と共に成長する企業の取り組み」を演題に講演を行いました。本会は、産業教育を担う県内の公・私立高等学校と地域や産業界の連携を深め、地域産業の発展に寄与する人材の育成を目指す産業教育の振興を図ることを目的に、山口県産業教育振興会が主催しています。

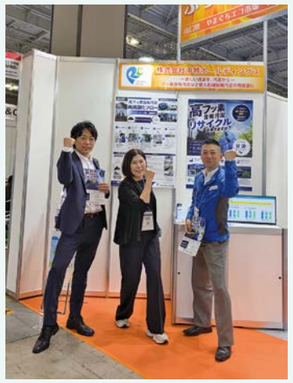


お客様の喜びのために。

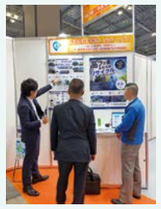
中特グループは、お客様や地域に愛される企業を目指し、
真にお客様の立場になったサービスに取り組んでいます。

2026NEW環境展へ出展

2026年5月20日（水）～22日（金）、㈱中特ホールディングスは東京ビッグサイトで開催された「2026NEW環境展」の山口県・やまぐちエコ市場ブースに出展しました。
営業企画推進部を中心に、「動脈産業と繋がる資源づくり」をテーマとして、高フッ素等含有汚泥をはじめとするリサイクルが困難な汚泥を対象とした循環型リサイクルモデルを提案しました。高フッ素等含有汚泥の再資源化や、不純物の低減・脱水などの前処理技術を紹介し、会期中は約240名の来場者や企業担当者にブースへお立ち寄りいただきました。
また、フッ素を含む廃棄物に関するさまざまな相談が寄せられ、高フッ素等含有汚泥の処理・再資源化に対するニーズの広がりを実感しました。多くの来場者との意見交換を通して、新たなニーズや今後の事業展開につながる貴重な機会となりました。







トクヤマ海陸運送株式会社と第2回交流会

10月22日（水）、トクヤマ海陸運送株式会社にお招きいただき、ハーバープラザにて第2回目となる交流会を行いました。会場には本部長、部長をはじめとするトクヤマ海陸運送8名、中特グループ8名が集まりました。改善提案活動やDX化、地域貢献活動、社内コミュニケーションなどが議題に上がり、両社の取り組みや課題点を共有しました。質疑応答が活発に行われ、貴重な意見交換の機会となりました。



東ソー株式会社工場見学

12月1日（月）、東ソー株式会社南陽事業所にて相互見学・意見交換会を行いました。南陽事業所長と中特グループCEOの橋本ふくみとのご縁により、工場見学が実現しました。中特グループからは8名参加させていただき、脱炭素へ向けた先進的な取り組みを拝見することができました。



出光興産株式会社工場見学

3月19日（木）、出光興産株式会社徳山事業所を訪問しました。新所長への表敬訪問をきっかけにプラント見学が実現し、12名が参加させていただきました。社会に不可欠なエネルギー供給をはじめ、多岐にわたる分野で価値を創出されている取り組みを、実際の現場で学ぶことができました。



お客様のご意見



日本ゼオン株式会社 徳山工場
副工場長兼業務管理課長

髙村利之 様

中特グループ様が昨年、創業60周年を迎えられましたこと、誠におめでとうございます。自宅が近いこともあり、お笑い芸人のゴー☆ジャスさんのステージ見たさに記念感謝祭にも足を運ばせていただきました。手作り感が感じられ地域の皆様をはじめ社員の方々も一緒に楽しんでおられる場面を拝見し、とてもアットホームで活気のある会社との印象を受けました。

実は弊社徳山工場も1965年8月に操業開始し、昨年60周年を迎えました。同じ時期に事業活動を開始した仲間として、とても深いご縁を感じております。一言で60年といっても、事業を継続することは並大抵のことではありません。社会経済や経営環境の変化を的確に捉えながら、多種多様な事業展開と人材育成を継続させ、社会課題への取組みや地域共生など多岐にわたる活動が求められます。

今回、お客様のご意見の執筆依頼を受け、改めて中特グループ様のCSR報告書をじっくりと拝読いたしましたが、スローガンである「まちと未来をキレイにする仕事。」をはじめ、企業理念、基本姿勢、行動指針、目指すべきポジションNo.1は、独創的で中特グループ様だからこその視点が散りばめられ、地域企業としての位置づけが明確に設定されており、60年間培ってきた思いやこれからの更なる成長を感じました。

また、これから企業として求められる課題をISO26000やSDGsを参考に設定する中で、毎年「経営＆ISO統合目標」を掲げ、数値目標をテーマに即したものに変化させながら取組みを継続されており、対外的にも社員にもわかりやすくとても良い活動をされていることに感銘を受けました。中でも、安全の推進をはじめ、働き方改革や労働生産性の向上、福利厚生の充実、健康増進活動の推進などの社員を大切にする活動は、人手不足が問われている中において、働きがい、やりがいを生み、社員の定着を促し、結果的に企業発展・成長につながる取組みであると感じております。弊社にとっても学ぶべき点が多く、大変参考になりました。

日頃より、中特グループの株式会社リライフ様、株式会社吉本興業様、中国特殊株式会社様には当工場の一般および産業廃棄物の処理に関して大変お世話になっております。これから産業廃棄物処理に関しては、適正処理の徹底、リサイクル率向上、脱炭素化、DX推進、国内資源循環の強化などが求められます。今後もよきパートナーとして一緒に75年、100年と共に歩んでまいりたいと考えておりますので、引き続きよろしくお願いします。

最後になりますが、中特グループ様が今後益々地域と共に発展されますこと、そして社員の皆様のご多幸とご活躍を期待しております。

以上

お客様の声を、より良いサービスへ

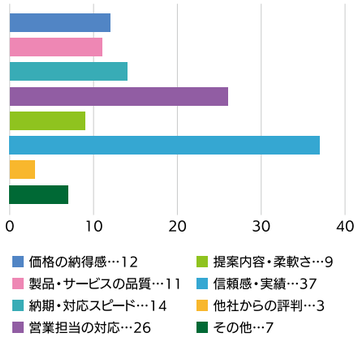
中特グループでは、お客様との継続的な関係づくりとサービス品質の向上を目的に、作業完了後のアフターフォローの一環として、営業担当者による「ご利用アンケート」を実施しています。

アンケートは、サービスをご利用いただいたお客様を営業担当者が訪問し、実際に利用されたサービスの感想や、中特グループを選んでいただいた理由、今後期待することなどを直接お伺いする取り組みです。前期は66件についてお客様から貴重なご意見をいただきました。

アンケートを実施する目的は、満足度を確認することだけではありません。作業後に改めてお客様を訪問することで、その後のお困りごとや新たなニーズをお聞きする機会を作るとともに、「なぜ中特グループを選んでいただいたのか」「どのようなサービスが求められているのか」「さらに改善できることはないか」といった声を集め、サービスや営業活動の改善に繋げています。

実際にいただいた回答からは、価格やサービス品質だけでなく、「信頼感・実績」「対応のスピード」「営業担当者の対応」「提案の柔軟さ」など、お客様が中特グループに求められているさまざまな価値が見えてきました。

これからも、お客様との接点を大切にし、一つひとつの声に耳を傾けながら、より良いサービスの提供と新たなニーズへの対応に繋げてまいります。



社員の幸せのために。

中特グループは、「すべては、応援からはじまるの精神で接する」という
社員に関する方針を掲げ、社員は会社にとって一番大切な存在で、
社員とその家族を守る事を最大の目標とし、事業拡大よりも優先します。

2026年度事業発展計画発表会

テーマ：「出来る方法を徹底して考える」

8月22日（土）に2026年度事業発展計画発表会が遠石会館にて開催されました。

会長　吉本英子より



厳しい社会・経済情勢が続く中、会社がこれからも成長していくためには社員一人ひとりの力が欠かせないと語り、激励の言葉を贈りました。「三人寄れば文殊の知恵」ということわざを引用し、一人では生まれない発想も、皆で意見を出し合うことで大きな成果につながると説明しました。最後に、社員の健康を気遣う一言とともに、社員やその家族の未来、そして会社のさらなる発展に向け、全社員で力を合わせてほしいと期待を伝えました。

CEO　橋本ふくみより



昨年度の総括と今期の重点施策について発表がありました。総括では、使用済み太陽光パネルや高フッ素等含有汚泥の再資源化、タイでの事業展開など、未来に向けた取り組みが紹介されました。また、今期のスローガン「出来る方法を徹底して考える」について、できない理由や言い訳は自然と出てくる一方、できる方法は自ら考えなければ見つからないと、童話を交えて説明しました。変化を捉え、これまでの方法に固執せず、一人ひとりが「どうすればできるか」を考え行動することで、グループの未来をつくっていこうと全社員へ呼びかけました。

懇親会

発表会の後には懇親会を開催しました。社員同士の交流企画として、若手社員を中心としたエコライフチームが推理ゲームを企画し、チームごとに意見を出し合いながら、謎解きに挑戦しました。部署や会社の垣根を越えて協力し、一つの答えを導き出す過程を通じて、楽しみながら社員同士の交流を深めました。







エコライフチームによる推理ゲームのパフォーマンス



卓ごとに推理ゲームに挑戦している様子



最優秀部門賞

㈱吉本興業



永年勤続表彰

30年勤続 1名
坂本 明日香
20年勤続　4名
石田 嘉邦　河村 英彦　靏本 昌子　福田 博子

改善提案賞 最優秀提案賞

㈱リライフ／嘉代 泰啓

改善提案賞 最多提案賞

㈱中特ホールディングス／
正田 陽一

感謝状 熊本地震災害支援

中国特殊㈱／秋山 健治　㈱リライフ／竹田 鉄平
中国特殊㈱／伊東 明紀　中国特殊㈱／村田 海夜

個人表彰

今年度は、各社で活躍した社員を社員投票によって選出する「個人表彰」を実施しました。日頃の仕事ぶりや周囲への貢献など、社員同士だからこそ分かる活躍を称える表彰です。懇親会にて、受賞者へ久保部長から賞状と金一封が授与され、会場全体でその活躍を称えました。



あいさつが素晴らしいで賞

㈱リライフ／富塚 光世　㈱中特ホールディングス／河村 久美
中国特殊㈱／岡田 奈奈　㈱吉本興業／高木 真



身だしなみが素晴らしいで賞

㈱中特ホールディングス／金子 ひかる　中国特殊㈱／田中 麻衣
㈱吉本興業／倉田 直樹　㈱リライフ／橋本 一雅



整理整頓が素晴らしいで賞

㈱中特ホールディングス／桐畑 静香　中国特殊㈱／村川 玄樹(代理)
㈱吉本興業／靏本 昌子　㈱リライフ／中倉 達也

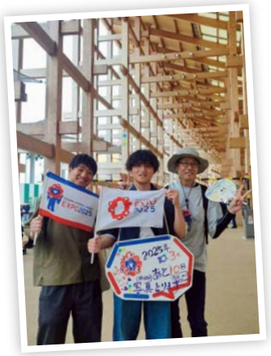


中特おせっかいで賞

㈱中特ホールディングス／河田 彩里　中国特殊㈱／下村 貴士
㈱吉本興業／吉川 郁夫　㈱リライフ／竹田 鉄平

大阪・関西万博で世界を回る研修旅行











10月3日（金）～7日（火）の期間中、中特グループは3班に分かれて社員研修旅行を実施しました。各班とも日程は1泊2日で、1日目は大阪・関西万博の視察、2日目は自由行動と奈良方面の2コースから、各自が視察したい場所を選びました。
廃棄物アート事業「ACTA+」は、大阪・関西万博の「EXPOメッセ・WASSE」館内にて、中小機構と中小企業庁が主催する体験型展示「未来航路-20XX年を目指す中小企業の挑戦の旅-」に出展しました。自社の出展をはじめ、さまざまな中小企業の未来へのイノベーションを視察したほか、各自が興味を持つ国内外のパビリオンを見学しました。
参加した社員からは、「ドイツ、イタリア、タイなど、国外の文化や技術を見ながら、一日で何ヶ国もの海外旅行に行ってきた気分で勉強になった」「EXPO内の森の整い方が美しく感動した。参考にして中特グループのReの森（㈱中特ホールディングス本社前の森）にも反映していきたい」といった声が上がりました。
夕食は大阪名物のかに料理で、社員同士の交流を楽しみました。





中特アカデミー





全社員に学びの機会を提供することを目的に、業務時間内に勉強会「中特アカデミー」を実施しており、廃棄物処理法やISO、ハラスメント防止講座など、業務に必要な知識を幅広く学びました。今期からは経理基礎セミナーも開始し、受注から計上、入金に至るまでの流れなど、経理の基本的な考え方を学びました。
また、役員講話では、各役員がこれまでの経験や仕事への向き合い方、大切にしている考えなどを社員に伝え、普段とは異なる視点から仕事や自身の成長について考える機会となりました。

社内コミュニケーション



中特グループでは、社員同士の交流を深めて風土づくりとサービス向上に繋げるため、LINEWORKSの掲示板機能を活用した社内コミュニケーションコンテンツの発信を続けています。
また、社員のご家族にもご覧頂けるよう毎月配布している「持ち帰れる社内報」は、2023年の創刊から30号を迎えました。社員の様子が伝わる写真のコラージュやメディア掲載情報など、忙しい中でも手軽に楽しく社内ニュースを知ってもらえるよう、工夫を凝らしています。今期は新たに業務にまつわる単語を用いたWORDパズルコーナーを盛り込み、「いつも楽しみに見ています」「超難問を希望します」などのコメントが寄せられました。今後も、社員間やお客様、家族との会話が1つ増えるきっかけとなるような媒体を目指し、発行を続けていきます。

本気で楽しむ親睦会











中特グループ親睦会は、役職や部署の垣根を越えて社員同士がつながる交流の場として、日頃からさまざまな企画を実施しています。6月6日（土）には「第1回　運動できなくても大丈夫!!中特大運動会」を開催し、社員やその家族など44名が参加しました。
運動の得意・不得意にかかわらず誰もが楽しめるよう、「追いかけ玉入れ」など見た目にも楽しいユニークな競技を用意しました。他にも趣向を凝らした競技を準備したくさんの方が参加しました。また、景品にも工夫を凝らし、誰もが活躍できるようにしたことで、普段の業務では話す機会が少ない社員同士も自然に声を掛け合う場面が見られました。
夏には、さらに交流の場を広げました。8月1日（土）は周南市内のレストランでのBBQに53名、8月12日（水）は光市内のレストランでのビアガーデンに24名が参加し、食事を囲みながら普段の業務では接点の少ない社員同士も会話が弾みました。
仕事には真剣に向き合い、楽しむ時にも本気になる。中特グループ親睦会では、皆が楽しめる様な企画を交えながら、これからも社員同士が自然につながる機会をつくっていきます。



BBQ



ビアガーデン

親睦会リーダーからの一言

今回、初めての取り組みでもある運動会開催のきっかけは、親睦会役員の一人から「運動会をやってみたい」という声が上がったことです。運動が得意でない人も楽しめる企画にし、景品も用意すればさらに盛り上がり、グループ各社の交流にもつながると思い開催しました。
印象に残っているのは、普段の業務ではあまり話さない社員同士が、競技を通じて自然に声を掛け合い、会場が一つになったように感じた場面です。参加して盛り上げてくれた皆さんには感謝の気持ちでいっぱいです。今後も、社員同士がつながるきっかけになるような企画を考えていきたいと思います。

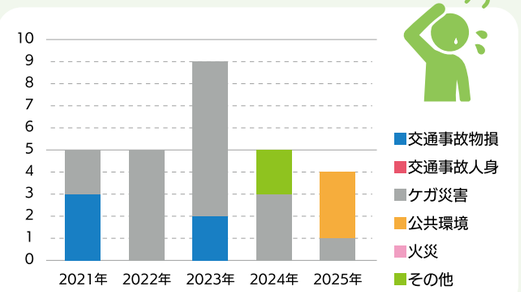
事故災害ゼロをめざして

安全衛生・防災はすべてに優先する。

「安全衛生・防災はすべてに優先する」考えのもと、
事故災害“ゼロ”を目指してグループを挙げて、各管理者・安全衛生委員を中心として安全衛生防災活動に取り組んでいます。

事故災害発生状況

2025年度は、休業災害の発生はありませんでしたが、不休災害が4件発生しました。中には一歩間違えば休業災害や環境事故につながりかねない事例も含まれています。また、熱中症など、これまでとは異なる種類の事故・災害も発生しており、引き続き注意が必要です。

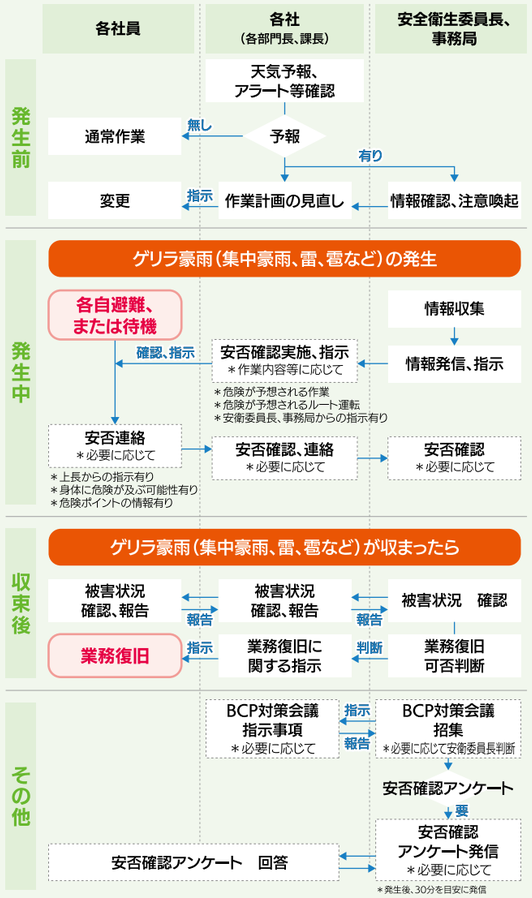


	内 容	原 因
①	エコライフイベント（クラフトアート）終了時に軽度の熱中症を発症。	・想定よりも休憩時間がとれておらず、水分や塩分の補給が十分でなかった。（個人任せ） ・個人の体調の確認が不十分だった。
②	お客様店内でのグリストラップ清掃時、グリスを吸い上げた掃除機を店外に持ち出そうとした際に 掃除機蓋のロックが外れて、グリスが店内に流出。	・掃除機のスペックに対する認識不足・経年による劣化に対する認識不足 ・事前のリスクアセスメント未実施
③	下水道清掃時、高圧洗浄作業中に近隣住宅のトイレ封水が噴き上がった。	・「分流管の場合は、最終桝を全箇所解放する」というルール（作業標準）が曖昧な判断により遵守されていなかった。
④	マンホールポンプ設置付近の民家において、汚水桝から汚水が溢れた。	・「点検終了後にポンプを自動に切り替える」という作業標準書の手順が遵守されていなかった。 ・「自動復帰確認」の重要性についての理解不足（経験が浅い社員）

BCP（事業継続力強化計画）

2021年12月に中特グループ全6社で認定を受けた経済産業省中小企業庁「連携事業継続力強化計画」をベースに、2025年度も具体的な活動と見直しを実施しました。
近年の異常とも思われる自然災害に対応するため、従来の活動の見直しに加えて、部門ごとに年1回以上の熱中症対策訓練を実施したほか、ゲリラ豪雨発生時の対応手順の作成や、地震・津波・高潮発生時の避難マニュアルの改訂（㈱リライフ）を行いました。今後も防災・減災に向けて取り組んでまいります。

ゲリラ豪雨発生時の連絡フロー



非常用備蓄品の保管

地震・津波、台風、集中豪雨などの自然災害に備え、100人が3日間過ごせる量の食料品や飲料などを備蓄しています。この中から、2026年7月に発生した熊本地震の支援として飲料水・食料品を提供することもでき、次への備えとして速やかに補充も行いました。また、避難訓練の一環として、防災持ち出し用バッグの点検なども実施しています。
今後も防災・減災に向けて取り組んでまいります。



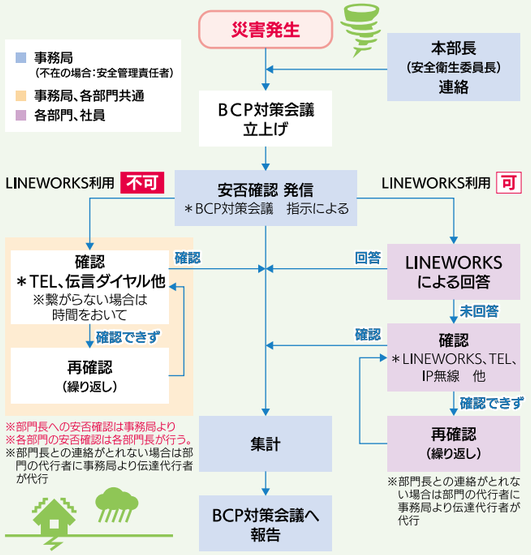




安否確認訓練

中特グループでは、全社員のスマートフォンでのLINEWORKSアンケート機能による安否確認訓練を3か月に1回継続して実施しているほか、実際に地震・台風・豪雨などの災害が発生した際にも活用しています。従来の電話やメールでの確認方法とは異なり、グループ全員の状況をリアルタイムで共有でき、短時間で確認が完了する点が大きなメリットです。
職場でのフォローにより社員の意識も向上し、未回答率も回を追うごとに減少し、応答時間も短縮されています。
今後も内容を精査しながら継続し、実態により則した形で万一の事態に備えます。

地震（津波）等発生時の安否確認フロー



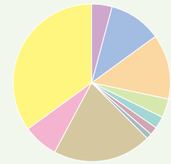
ヒヤリハット摘出と対策活動

全ヒヤリハットの摘出と対策に継続して取り組んでいます。
2025年度はグループ合計1,542件を報告・共有し、分析と再発防止策を実施しました。
事故・災害を未然に防止するため、日々“ヒヤリ”と感じる感性を養う活動を続けています。内容は次の通りです。

全体傾向

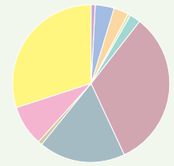
区 分	傾 向
事故災害の型別	交通関連の危険察知報告が上位を占め、多くは他者要因によるもの。日々の安全確認の徹底を示す傾向。
管理・設備上の要因	不安全行動・状態への気づきが半数超を占め、日常的な安全確認・声掛けにより早期発見できている。
人的状況及び環境要因	「安易に考えた」「あわてた」などの心理的要因への気づきが多く、危険感受性向上の教育につなげている。
部門別提出状況	各部門で危険予知活動が定着しており、特に吉本興業では活発な報告・共有が行われている。

事故災害の型別分類



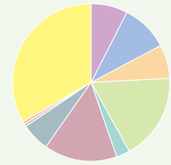
- 69 … 墜落・転落
- 171 … 転倒
- 210 … 激突
- 61 … 飛来落下
- 43 … 挟まれ・巻き込まれ
- 25 … 切れこすれ
- 16 … 有害物質の接触
- 321 … 交通事故（他者原因）
- 115 … 交通事故（自己原因）
- 552 … その他

管理・設備上の要因



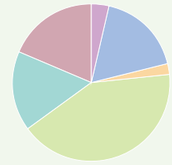
- 17 … 手順書の不備、習得不足
- 59 … 設備上の不備
- 50 … 作業段取りの不備
- 11 … 指示命令の不備
- 33 … 保護具工具等の不備
- 516 … 不安全行為・状態（他者）
- 285 … 不安全行為・状態（自分）
- 14 … 作業教育訓練不足
- 133 … 天気・日照・気候等
- 474 … その他

人的状況及び環境要因



- 127 … よく見えなかった
- 158 … 気づかなかった
- 119 … 見落とした
- 293 … 安易に考えた
- 43 … 急所に気づかなかった
- 249 … あわてた
- 97 … 体のバランスを崩した
- 11 … 手順を無視した
- 8 … 疲れていた
- 549 … その他

部門別提出状況



- 56 … 中特HD
- 272 … 中国特殊
- 36 … 藤井興業
- 639 … 吉本興業
- 255 … PHS
- 284 … リライフ

事故災害ゼロをめざして

リスクアセスメント活動

中特グループでは、事故・災害を撲滅するための手段のひとつとして、リスクアセスメント講習修了者や管理者を中心に、社員全員が参加する形で、リスクアセスメント活動を継続して実施しています。
各社ごとの作業における危険源に対してリスクを見直し、①更なるリスク低減の手段・方法はないか、②新たな危険源はないかをメンバーで検討することで、安全レベルの向上を図っています。
最近では、イベント開催前に社歴の浅い社員が危険源の排除やリスクの低減のためにリスクアセスメントを積極的に行うなど、意識の高まりが見られます。
また、2023年度からは、各社・各部門から選出された化学物質管理者を中心に、化学物質取扱いに関するリスクアセスメントにも取り組んでいます。




JBK（事故撲滅研修）＆なぜなぜ分析

中特グループの現業部門では、月1回以上「ＪＢＫ（事故撲滅研修）」を実施しています。自部門だけでなく他社・他部門の事故もケーススタディや認識度テストの題材とすることで意識を高め、社員全員での事故撲滅を目指しています。
研修では、発生事象から一次要因～三次要因（真因）を掘り下げて有効な対策を導き出し、類似の事故・災害の防止につなげる「なぜなぜ分析」の手法も取り入れています。事故・災害や重大なヒヤリハットが発生した際には、速やかにこの分析を行っています。






安全相互パトロール＆産業医職場巡視

中特グループでは、現業部門を対象に、月1回の安全相互パトロールを実施しています。環境安全衛生委員会の委員を中心に他部門の社員も多数参加し、異なる視点から、当該部門が気づいていない問題点や作業に潜む危険リスク、Ｇｏｏｄポイントなどを気づきとして共有しています。こうして共有された気づきをもとに補修・修繕・改善などを行うことで、より安全な職場環境を目指しています。
また、月1回開催される「環境安全衛生委員会」に合わせて、産業医による職場巡視も実施しています。照度やCO_2濃度、換気などの職場環境、化学物質管理などを中心に、衛生環境について専門家の視点からアドバイスをいただき、改善につなげています。



◆安全相互パトロール






◆産業医職場巡視




各種訓練

◆消防訓練

㈱中特ホールディングス（社屋）は不特定多数の方が利用されるため「特定防火対象物」に該当し、防火管理者の選任と消防訓練の実施が義務付けられています。これに伴い、6月15日（月）に消防訓練を実施し、水消火器の操作訓練や排煙設備の操作方法、消防署をはじめとする関係各所への連絡方法の確認などを行いました。
普段の訓練・経験が、いざというときに自身や仲間の身を守ります。今後も社員以外の方への誘導訓練など、様々な事態を想定した訓練を実施してまいります。






◆緊急事態想定訓練

中特グループでは、ISO14001および45001の規格要求事項に基づき、各社共通または特定作業における17の緊急事態を想定し、年1回以上の緊急事態想定訓練を実施しています。
「地震・津波発生時の避難訓練」「熱中症重篤化防止訓練」を追加し、年1回以上の実施を必須としています。



緊急事態特定一覧

酸素欠乏・硫化水素中毒	改質施設での転落、巻き込まれ
廃棄物の飛散、漏洩	有機溶剤中毒
中特HD本社社屋火災	重機のホース破損、作動油洩れ
苛性ソーダ保管、使用時の漏れ	地震（津波）、豪雨災害発生
排水異常	硫酸・苛性ソーダ保管、使用時の漏れ
熱中症	保管汚泥の敷地外への流出
パッカー車両火災	自家スタンド軽油受入時の漏洩
汚泥（汚水）流出	希塩酸保管、使用時の漏れ
自家スタンド給油時の漏洩	

◆技術・技能向上訓練

中特グループでは業務に必要な技術・技能の向上や部門間の連携を深めるための訓練を行っています。作業効率を高めることはもちろん、安全を第一に考えた作業ノウハウを身につけることを目指しています。



◆車両誘導訓練

中特グループでは、多種多様な車両を80台以上保有し、多岐にわたる業務を日々行っています。街中や狭い場所での運転も多いことから、使用する車両の特性を把握したうえで、作業現場での事故を防止するため、定期的に車両誘導訓練を実施しています。
訓練では、誘導員が見るべきポイントや立ち位置、声の大きさなど、細かな部分まで確認しながら参加者全員で共有し、特にバック時の誘導については、中特グループの車両運行における基本と位置づけています。



◆災害発生時の避難訓練

昨今の地球規模での大規模な地震・津波の発生や気候変動による局所的な豪雨での浸水や冠水に備え、中特グループでは様々な避難訓練のマニュアルを作成し、グループ各社ごとに避難訓練を実施しています。
今年度は「ゲリラ豪雨発生時の対応手順書」や「対応フロー」を作成し、災害の程度に応じた指揮系統や役割分担、個々人の取るべき行動などを明確にしました。
種々の避難訓練の中でも「地震・津波発生時の避難訓練」については緊急事態想定とし、年1回以上の訓練実施を必須としています。
避難訓練により、①身を守る行動、②災害発生時の指定場所への避難行動、③安否確認、④災害後の早期復旧に向けた車両退避などの動きを確認します。
訓練を繰り返すことにより、いざという時に速やかに「生命を守る行動」がとれるようにするため、今後も継続してまいります。





第三者意見

ダチョウがつないだご縁
——「みんなに愛される会社」へ

京都府立大学 学長　塚本 康浩 様（獣医師・獣医学博士）



私は京都府立大学の学長を務める塚本康浩です。獣医師、獣医学博士として、長年ダチョウの研究に取り組み、ダチョウの卵から抗体をつくる技術を見いだし、感染症対策やアレルギー対策など、さまざまな商品開発につなげてきました。

十数年前のある日、若い女性二人とご年配の男性一人から、突然「ダチョウ牧場を見学したい」と連絡をいただきました。実際にお会いすると、女性二人はとにかく元気で、よく話す。ところが、私の話はあまり聞いていないようにも見えました。そのお二人こそ、橋本社長と吉本社長でした。

お話を聞くと、山口の会社敷地内の空き地でダチョウを飼い、これまで廃棄物として処理されてきた食品残さを餌として活用し、会社全体で環境にやさしい食品リサイクルに取り組みたいとのことでした。私自身、売れ残ったモヤシをダチョウに与え、その糞を肥料として野菜づくりに利用していたため、発想そのものには大いに共感しました。

しかし、ダチョウは巨大で、意外に飼育が難しく、時に非常に危険な鳥です。自称「プロのダチョウ師」である私でさえ、蹴られて右足を骨折した経験があります。そこで私は、「考え方は素晴らしいですが、ダチョウはやめときなはれ」と、かなり強くお止めしました。これまでも同じような相談を数多く受けてきましたが、長く続いた例はほとんどなかったからです。

ところが後日、「もうダチョウの飼育を始めました」と連絡がありました。忠告を聞かない大胆さには驚きましたが、何度か現地を訪れると、ダチョウたちは思いのほか良い環境で、のびのびと暮らしていました。その後は、卵から抗体を抽出する共同研究にも取り組みました。思いつきを口にするだけでなく、まず行動に移し、試行錯誤しながら継続する。この実行力こそ、中特HDの大きな強みなのだと思います。

一般にCSRという言葉は、立派な理念や報告書の中だけで語られがちです。しかし、不要となった食品をダチョウの命につなぎ、そこから新しい価値や地域との交流を生み出す中特HDの取り組みは、理念を日々の仕事と行動に落とし込んだ、実に分かりやすいCSRです。最初は無謀にも思えた挑戦が、十年以上続く会社の風景になったこと自体に、大きな意味があります。

ダチョウは、体も卵も大きく、そこにいるだけで人の目を引きます。子どもたちの学びや保育園の遠足にもつながり、社員や地域の方々の会話を生み、人と人との縁を結ぶ存在にもなっています。「ダチョウが暮らしている会社」として中特HDの名が地域に広がったと聞きます。食品リサイクル、環境、地域交流という三つのキーワードを一羽のダチョウがつないでいることは、中特HDらしいCSRの象徴であると感じます。

もちろん、今後も飼育における安全管理と動物福祉を最優先にしていただきたいと思います。そのうえで、この個性的な取り組みを、環境教育や地域との交流、資源循環の発信へとさらに育てていただきたいと期待しています。

あれから私も、橋本社長も吉本社長も年齢を重ね、それぞれに経験と人徳を重ねてきました。しかし、顔を合わせて話す内容は、アカデミックな議論でも難しいビジネスの話でもなく、結局はいつもの世間話です。それでよいのだと思います。ダチョウは寿命が長く、六十年ほど生きるともいわれます。人も会社もダチョウも、焦らず、しなやかに歩み続ければよいのでしょう。

ダチョウがもたらす笑顔とご縁を大切にしながら、中特HDがこれからも地域の皆様に愛される会社であり続けることを、陰ながら応援しています。長年のご縁に、心より感謝申し上げます。

第三者意見を受けて

ご多忙にも拘わらず、ご意見を賜りましてありがとうございます。

塚本様には、十数年の長きに亘り、弊社の『ダチョウ飼育を通じて社会に貢献する』という途方もない発想に対して、数々のご指導を賜り、深く感謝申し上げます。おかげをもちまして、地域の皆様、特に小学生の子どもたちの学びの場として、『中特グループ＝ダチョウのいる会社』として認知度も高まってまいりました。

今後もご助言の通り、安全管理と動物福祉を最優先にしながら、焦らず、しなやかに歩み続けてまいります。そして、ダチョウをご縁として、これからも地域の皆様に愛される会社であり続けることを目指します。

今後ともご指導のほどよろしくお願いいたします。

CSR推進室　岩﨑 達美

公正な事業と組織運営のために

経営執行組織図



まちと未来をキレイにする仕事。
Chutoku Group

株式会社 中特ホールディングス
〒745-0801 山口県周南市大字久米 3034-1
TEL:0834-25-0606(代表)　FAX:0834-25-0607

中国特殊株式会社
〒745-0801 山口県周南市大字久米 3078-1
TEL:0834-26-0500 FAX:0834-25-2856

株式会社 吉本興業
〒745-0801 山口県周南市大字久米 3044-2
TEL:0834-25-0423 FAX:0834-25-2939

株式会社 リライフ
〒745-0801 山口県周南市大字久米 3078-1
TEL:0834-33-8685 FAX:0834-25-2856
[下松リサイクル工場]
〒744-0002 山口県下松市東海岸通り18-1
TEL:0833-44-0007 FAX:0833-44-1007

株式会社 藤井興業
〒746-0017 山口県周南市宮の前2-2-12
TEL:0834-63-1294 FAX:0834-25-2856

株式会社 ポータルハートサービス
〒745-0801 山口県周南市大字久米 3078-1
TEL:0834-33-8100 FAX:0834-25-2939
[宇部営業所]
〒755-0045 山口県宇部市則貞2-11-1-208

アンケートは
こちらから

VEGETABLE OIL INK